

②「日中緑化交流基金」(199 ページ)

1998年に長江流域の一部が未曾有の洪水に見舞われてから、中国政府は自然災害を食い止めるため、水土保持を強化するさまざまな対策を講じるほか、全国で大規模な植林活動を展開してきた。

中国の植林活動を支援するため、当時の小淵恵三首相が「日中緑化交流基金」の構想を提案し、1999年7月に北京を訪問して中国側と事業活動について合意した。そして、日本政府より100億円規模の基金を拠出し、事務局を立ち上げて事業を始めた。

このプロジェクトがスタートしてから10年も過ぎ去り、「日中緑化交流基金」の助成プロジェクトはすでに中国全土の28省に広がり、当該資金の助成で行われた植林プロジェクトは2009年度まで合計158件、総面積は41745平方キロメートルに達している。

10年も続けられたプロジェクトの実施により、基金会100億円の基金のうち49億円が使われた。(一部省略)

初歩的な統計によれば、ここ10年のうち植林のために中国に駆けつけた日本人は合計1,300人以上、中国側も21,000人あまりが活動に参加した。おびただしい人々が参加する大規模な活動として、1984年の中日青年大交流の場面を彷彿させる。

特筆しておきたいのは、毎年のように日本から中国に来られる植樹のボランティア達だ。自腹で植樹活動に参加されるこれらの方々は、中国地元の人たちと共に植樹活動に参加するだけで、観光旅行など一切せずに帰国してしまう。彼らの気持ちも心も、植えた木の根っこと共に中国大陸に植え付けられている。

(一部省略)

春が大地を訪れると、「日中緑化交流基金」の潤いに恵まれた中国各地の緑化プロジェクト現場に、数百、数千人の中日両国の植樹ボランティア達が一堂に集い、手塩にかけて育てた木々がまたと破壊されないように、苗木を植えたり水をかけたりして両国友好のシンボルを育てるのに心血を注いでいる。



日中青年交流協会植樹現場



中日林业合作10周年讨论会